

市政ニュース

「子育ても遊びもおどろく」 本庁舎前が「子育て広場」に大変身!

市役所前の市民広場が、小さな子どもが安心して遊べる「子育て広場」になりました。

「広くはないけど、ふかふかの芝生があつて、よちよち歩きの子どもたちが安心して遊べて、ママたちもホッと一息つけて、地域の人たちも一緒に憩える広場」がコンセプトです。

5月16日、多くの子育て中の親子が集いオープニングセレモニーを開催。新しく設置した飛び出し防止の木製柵に、



▲笑顔あふれる子育て広場



▲遊具で楽しむ子ども

子どもたち自ら看板を設置しました。おひさまたつぷり注ぐ芝生の上で思い切り遊んだ後は、本庁舎2階の食堂でひと休み。子どもやママたちの人気スポットになりそうです(7ページの「中貝市長の徒然日記」に関連記事あり)。

日本最古級の木造時計台

但馬國出石「辰鼓楼」の大修理

明治4年(1871年)の創建から146年、出石城下町で辰を刻み続けている「辰鼓楼」の平成の大修理を、5月下旬から行っています。創建当時は、時報台として最上階の4階で太鼓を叩いて辰(とき)を知らせていた「辰鼓楼」。大時計は、明治14年に設置され、以降、現在の時計台の姿になっています。

老朽化に伴うこの大修理は、昭和初期に行われて以来の88



▲平成の大修理始まる

年ぶり。今秋まで、約半年をかけて行います。修理期間中は、外観を見ることはできませんが、完成まであと3回、修理現場見学会を開催する予定です。

なげない毎日の中に、世界でいかにしかない風景を 映像「コウノトリと共に生きる」完成

およそ半世紀前に日本の空から一度姿を消したコウノトリ。放鳥からさまざまな努力を経て10年以上が過ぎた今、私たちとコウノトリはどう関わってきたのでしょうか? これまで、今、そして未来へ。世界から注目されている本市のコウノトリと一緒に暮らす日常を、約22分の美しい映像に収めました。

この映像は、市内の公立



▲コウノトリ

小・中学校の「ふるさと教育」で活用する他、コウノトリ文化館で放映しています。

主な市政の動き

5月

- 12日・市議会臨時会開会
- 16日・豊岡地域「子育て広場」オープニングセレモニー
- 17日・豊岡市×キャリアパーク合同企業説明会(大阪市)
- 20日・加陽水辺公園竣工式
- 23日・豊岡市基本構想策定意見交換(但東、31日・豊岡、城崎、6月2日・竹野、8日・日高、9日・出石)
- 26日・豊岡市空家等対策協議会・豊岡稽古堂塾第4期開講式
- 27日・まちづくりカフェ
- 27日・豊岡の未来を創る高校生ラジオシンポジウム
- 29日・「ビクトリア大学太平洋アジア学科日本語コミュニケーション講座」の受け入れ(6月8日)
- 30日・スマートウエルネスシティ首長研究会 in 豊岡(31日)
- 31日・「チャレンジデー2017」参加

6月

- 1日・豊岡市地方創生総合戦略(第3版)の改訂(第3版)
- 2日・市議会定例会開会(28日)
- 4日・豊岡市歴史的建築物保存活用専門委員会

原風景の再生 つながりの再生の拠点施設

出石川の加陽湿地に隣接する「加陽水辺公園」竣工式開催

平成25年から整備を進めてきた「加陽水辺公園」の完成を祝い「豊岡市生きもの共生の日」の5月20日、竣工式を行いました。

また、国が整備していた隣接する加陽湿地もほぼ完成したため、国土交通省の協力を得て出石川・加陽湿地のお披露目も行いました。

竣工式には、関係者ら約40人が出席し、テープカットや施設見学を行った他、中筋地

区の「コミュニティなかすじ」の皆さんが、地元産のイチゴとホウレンソウを使用した飲料でおもてなし。湿地では、中筋小学校の児童約30人が、完成を記念しフナとヤマメを放流しました。

「交流館」と「湿地ふれあい広場」のエリアからなる公園の面積は約1万2千㎡。園内には、湿地を見渡せる高台や、山中に遊歩道なども設置しています。

平時から万一の災害に備え

北但大震災メモリアル事業「写真展」「市職員参集訓練」実施

大正14年5月23日に本市を襲った北但大震災から、今年で92年を迎えました。

いつ発生するか分からない大地震。北但大震災での大災害の記憶を風化させることなく防災・減災対策に生かした後世に伝えていくため、4月29日から5月31日まで、豊岡稽古堂で「北但大震災メモリアル写真展」を開催しました。

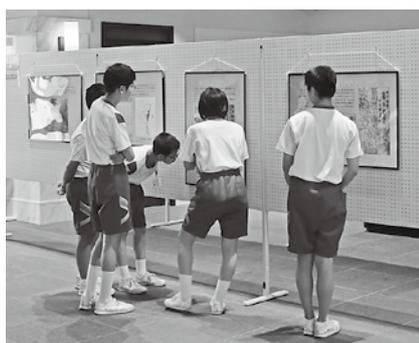
写真展には、本市が所有する写真や資料の他、京都産業

大学が制作した当時の新聞の複製パネルなど約60点を展示。震災したまちの状況や救援活動などを紹介しました。

また市役所閉庁日の5月27日には、本市に直下地震が発生したという想定の下、市職員が、本庁、各振興局に徒歩、自転車などで登庁する初めての職員参集訓練を実施し、612人が参加しました。本市では、震度5強以上の地震が発生した場合、災害対策本



▲加陽水辺公園と加陽湿地



▲北但大震災の写真を熱心に見る中学生

部を自動的に設置し災害の対応を行うこととしています。

中貝市長の徒然日記 116

子育てを応援するのだ

子どもたちのいる風景は、最良の風景です。市役所前庭が、子育て広場になりました。5月16日、80家族約190人が集まり、お祝いをしました。旧庁舎時代、前庭は駐車場でした。子どもたちの笑い声が響くほうが素敵なのに。そこで、新庁舎建設に際して駐車場は庁舎裏側に配置し、前庭は芝生広場にしました。

ところが。イベント時以外には子どもたちはなかなか来ませんでした。なぜだろう？子育て総合センターの職員に尋ねました。道路との境に柵がないので、安心して幼児を放し飼いでできない(失礼!)。日陰がない。遊具がない。

なるほど、そうだったのか。お母さん方に集まっていただいて、どうすればいいか検討していただきました。実験を重ねて取外し可能な柵を作り、折りたたみテントを用意し、遊具を置きました。検討途中で、娘にその話を

しました。「昼越えができるといいんだけど」「昼越え?」。午前中に子どもを遊ばせて、そのままお昼を食べて、家に帰る頃にお昼寝をしてくれたら最高!ということでした。でも、食堂で子どもが泣き騒ぐと、親は消え入りそうになる、と。職員に話すと、「あ、既にお母さん方と話をしています。市役所の食堂にベビーカーとキッズスペースを置き、子ども用のメニューも作ってもらいます」。

職員に通知を出しました。というか、既に担当が文案を準備していました。「食堂でマザーバッグとお子さんを抱えたお母さんを見かけたら、トレーを運ぶなどのお手伝いをお願いできますか」

先日、広場からにぎやかな声が聞こえてきました。子どもたちがいっぱいなら嬉しいな。走って出てみると、チャレンジデーで職員たちが職場対抗の大縄跳びをして盛り上がっていました。なあんだ。ま、いいか。にぎやかなら。子育て広場は、順次旧町ごと